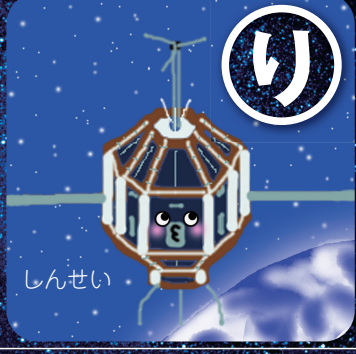
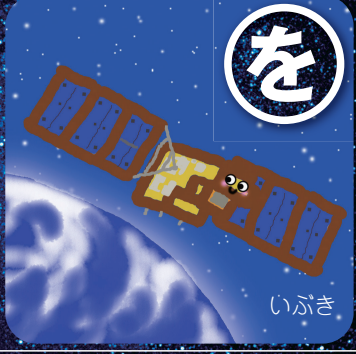
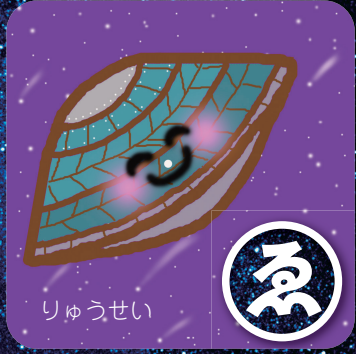
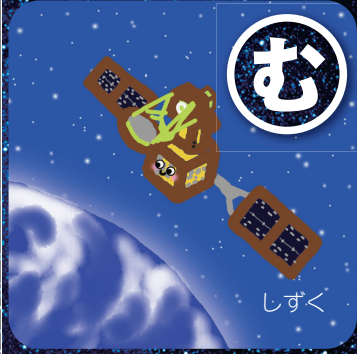
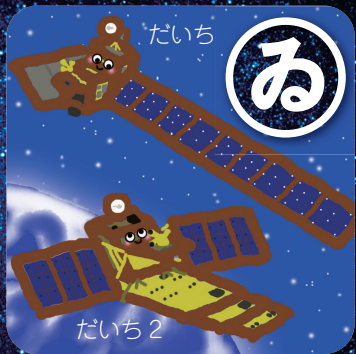
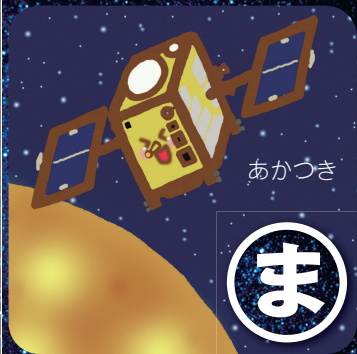


取り札表② (の〜ん)

白い線で切って使おう。



### 海洋観測衛星 「もも (1号機)」(MOS-1)

打上げ：1987/2/19

日本で最初の地球観測衛星。海洋を中心とした地球の観測を行い、今後の地球観測衛星の基本となる技術を確立した。すべて順調にこなし、なおかつ体も健康だったため、約8年間運用された。

### 陸域観測技術衛星 「だいち」(ALOS) 「だいち2」(ALOS-2)

打上げ：2006/1/24

だいち (ALOS-1) は、地球の陸域を3次元で観測し3次元地図の作成に貢献するとともに、災害状況や環境変動の把握、資源探査、違法伐採や不法投棄を監視した。2016年現在は、だいち2 (ALOS-2) が運用中。

### 金星探査機「あかつき」 (PLANET-C)

打上げ：2010/5/21

予定されていた金星軌道への投入には失敗したが、5年後の再接近に願いをかけ、不要なものを投棄してチャンスを待った。打ち上げから5年後の12月、満を持して金星軌道への再投入実施。無事に成功し、2016年現在、金星軌道を周回中。

### 準天頂衛星「みちびき」(QZS)

打上げ：2010/9/11

GPS衛星の補完・補強が目的で、4機そろって準天頂システムのコンプリートとなるが、2016年現在、7機までが計画されている。(2016年現在情報)

### データ中継技術衛星 「こだま」(DRTS)

打上げ：2002/9/10

当時、世界最高速度の衛星間通信実験に成功。みどりやきらり、だいちやきぼうなどの、衛星と衛星を中継し、みんなをつなげる役割を担った。衛星の基礎となるバスの中型静止三軸技術の開発も行い、2016年現在も運用中。

### 地球観測プラットフォーム技術衛星 「みどり (1号機)」(ADEOS-1)

打上げ：1996/8/17

地球環境監視、地球観測プラットフォーム技術・データ中継技術の開発を目的に打ち上げられたが、太陽電池パドルが破断し約10ヶ月でやむなく運用を断念。しかし、地球観測分野における国際協力の推進等、世界的には大きく注目され、評価は高かった。

### JAXA 発足

発足日：2003/10/1

文部科学省宇宙科学研究所 (ISAS)・独立行政法人航空宇宙技術研究所 (NAL)・特殊法人宇宙開発事業団 (NASDA) の3つの機関が統合されて発足した。

### 内之浦宇宙空間観測所

開設日：1963/12/9

ロケットの射場は通常、広い砂漠地帯や海岸沿いにあるので、山地に立つロケット発射場というのは、世界的にも珍しく、科学衛星や観測ロケットの打上げおよび管制を行っている。(鹿児島県肝付町)

### 伸展展開機能実験ペイロード (DEBUT)

打上げ：1990/2/7

微小重力環境におけるテザー・ブーム衛星の実証。先端に空力傘をつけた伸展ブームの伸展・収縮実験、および振動測定を実施。体はとっても小さく、傘をかぶった珍しい形のペイロード。

### 軌道再突入実験機 「りゅうせい」(OREX)

打上げ：1994/2/4

日本初の気圏再突入実験機。再突入中時の高温により、一時ブラックアウト現象が起きて通信が途絶えたものの、再突入時の空力加熱特性や通信データをしっかり記録していたため、目的の任務をこなして、その役目を終えた。

### 第一期水循環変動観測衛星 「しずく」(GCOM-W1)

打上げ：2012/5/18

気象予測や漁業などに利用できるよう、降水量、水蒸気量、海洋上の風速や水温、陸域の水分量、積雪深度などを観測し、地球の水循環メカニズムを解明すべく、宇宙に飛び立ち、2016年現在も地球を見つめてくれている。(GCOM-Cは、気候変動を観測)

### 中層大気観測衛星 「おおぞら」(EXOS-C)

打上げ：1984/2/14

中間圏と、磁気圏のオーロラ観測及び電離層プラズマの特異現象を解明。ロケットから分離する際に衛星の表面がロケットのガスで汚れた。その影響で太陽の高温にさらされ蓄電池が劣化してしまったが、巧妙な運用技術で電池使用量を調整、傷だらけの体で5年近くもがんばった。

### ハレー彗星探査機「すいせい」 (PLANET-A)

打上げ：1985/8/19

当時76年ぶりに到来したハレー彗星を追うため、世界各国が協力して次々に接近を挑み多くの成果を挙げ、その探査機群は「ハレー艦隊」と呼ばれた。

### 地球資源衛星「ふよう」 (JERS-1)

打上げ：1992/2/11

合成開口レーダ及び光学センサーによる地球観測技術を確立。資源探査等を行い、日本以外の国へも情報を供給し、予定されていた期間を延長して7年8ヶ月も運行され、日本の調査隊による古代エジプト遺跡の発見にも貢献した。

### TR-1A「たけさき」

射場：種子島宇宙センター (鹿児島県)  
高さ：13.44m 直径：1.13m  
重さ：10.26t

テスト試験機。実験終了後はパラシュートが開いて海上に落下、フローテーションバッグにより浮遊し回収が可能。愛称の「たけさき」は、種子島宇宙センターの竹崎射点に由来。

### 月周回衛星「かぐや」 (SELENE)

打上げ：2007/9/14

「おきな (リレー衛星)」と「おうな (VRAD衛星)」を乗せて月調査へ出発し、運用中は美しい月の画像を地球に送信し続けてくれた。最後は月の表面へ制御落下され、2年間の運用を終えた。

### 温室効果ガス観測技術衛星 「いぶき」(GOSAT)

打上げ：2009/1/23

温室効果ガスの濃度分布を測定。また、測定の際に誤差の要因となる雲・エアロゾル(大気粒子状物質)も観測。一時、センサー内の冷却機能が停止してしまったが、再起動で無事に立ち上がり、全機能フル稼働で2016年現在もデータを送り続けている。

### 技術試験衛星 「きく (7号機)」(ETS-VII)

打上げ：1997/11/28

ランデブ・ドッキング技術・遠隔操作技術の軌道上実験を実施。ひこぼしは追跡衛星(本機)、おりひめはターゲット衛星。1998年の七夕に、軌道上で見事、ひこぼしはおりひめをつかまえ、5年間仲良く過ごした。

### イブシロン

射場：内之浦宇宙空間観測所 (鹿児島県)  
高さ：24.4 ~ 26m 直径：2.6m  
重さ：90.8 ~ 95.1t

安価で即応性の高い、小型人工衛星打ち上げ用の固体燃料ロケット。組立・点検など運用の効率化をはかり、また管制人員も減らし、コストパフォーマンスの低減化で話題になった。

### L-4S-5

射場：鹿児島宇宙空間観測所  
高さ：16.5m 直径：0.735m  
重さ：9.4t

ラムダロケット5号機は、日本初のペイロード搭載に成功。(ペイロードは「おすみ」)

### 宇宙ステーション補給機 「こうのとり (1号機)」(HTV)

打上げ：2009/9/11

ISSへの物資の補給が主な役割。世界初の無人ランデブ飛行が大きく注目された。世界の無人補給機の中ではハッチ(扉)が最大。与圧部・非与圧部・電気部・推進部の4つのモジュールと曝露パレットから成り、与圧部には人が入室可能な有人対応型。

### 科学衛星「しんせい」(MS-F2)

打上げ：1971/9/28

日本初の科学衛星。電離層や宇宙線の異常を発見したり、太陽の短波帯電波の発生メカニズムを解明したりと、世界各国にも大きく貢献した。

### 臼田宇宙空間観測所

開設日：1986年

国内最大級の64mパラボラアンテナがある観測所。(H-IIBの高さが56mなので、ロケットよりも大きい!)このアンテナを介して宇宙探査機へコマンドを送ったり、衛星から観測データを受信したり、常に宇宙とつながっている場所。(長野県佐久市)

### X線天文衛星「はくちょう」 (CORSA-b)

打上げ：1979/2/21

日本初の天文衛星。X線バースト源をはじめとするX線天体の広帯域スペクトルと強度変動について観測した。物理学者でもある小田稔先生が開発した「すだれX線コリメータ」が採用され、画期的なデータを数多く残した。